

授業科目（ナンバリング）	薬理学Ⅲ（末梢-2） （N4E320）			担当教員	縄田 陽子・福森 良		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本講義では、末梢疾患の治療薬を学ぶ。まず末梢組織および各臓器の生理機能を理解した上で、代謝性疾患、炎症性疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患、血液系疾患および悪性腫瘍の①病態、②治療薬の作用メカニズムと③副作用を学び、理解する。							①②③
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力	(1) 代謝性疾患、炎症性疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患、血液系疾患および悪性腫瘍の病態を説明できる。(2) (1) で挙げた疾患に対する治療薬の薬理作用および副作用を説明することができる。				・ 中間試験 ・ 定期試験	30% 70%	
情報収集、 分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
記述式を中心とした中間試験および定期試験の結果で厳正に評価する。中間試験（筆記試験：30 分）は、前半 4 コマの内容について講義時間外に実施し、その評価比率を 30%とする。定期試験（筆記試験：60 分）では、後半 11 コマの内容について実施し、評価比率を 70%とする。最終的に中間試験と定期試験を合計して評価し、その結果は定期試験の結果公開と同様のスタイルでフィードバックする。全講義時間の 3 分の 1 を超える欠席のあった学生は、定期試験の受験資格を喪失する。							
授業の概要							
本講義では、代謝性疾患、炎症性疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患、血液系疾患および悪性腫瘍に対する治療薬の薬理作用機序や副作用について講義する。また、新たに上市された最新の治療薬についての医薬品情報も紹介する。教科書、プリント、パワーポイントなどを用いて授業を進める。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、112.5 分です。							
教科書・参考書							
教科書：新しい疾患薬理学 2 版（岩崎克典/徳山尚吾編集；南江堂） 参考書：図解薬理学（鍋島・井上編集；南山堂）、薬理学（金子周司編集；化学同人）、 New 薬理学第 7 版（田中・加藤編集；南江堂）、薬がみえる vol.1-3（Medic Media） 指定図書：新しい疾患薬理学 2 版（岩崎克典/徳山尚吾編集；南江堂）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
末梢の疾患を中心軸に据え、その病態を背景に、①治療薬名と作用機序および②副作用を関連付けて学修しましょう。分からない所が分っている学修態度が望まれる。「答え」を覚えるより、「問題を作れる」能力を養おう。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1 2	<u>糖尿病治療薬</u>	糖尿病の病態を理解し、糖尿病治療薬の薬理作用、機序および主な副作用を学ぶ。(縄田)	教科書 p420～433 を予習しておく	669, 677
3	<u>脂質異常症治療薬</u>	脂質代謝、および脂質異常症の病態を理解し、その治療薬の薬理作用、機序および主な副作用を学ぶ。(縄田)	教科書 p434～441 を予習しておく。	670
4	<u>高尿酸血症治療薬</u>	プリン体の代謝、および高尿酸血症の病態を理解し、その治療薬の薬理作用、機序および主な副作用を学ぶ。(縄田)	教科書 p442～446 を予習しておく。	671, 677
5	<u>抗炎症薬</u>	炎症とは何か、体温調節・痛みの発現は如何なる調節機構を介しているかをまず理解する。解熱性鎮痛薬、抗炎症薬、ステロイド薬をあげ、その薬理作用、機序および主な副作用を学ぶ。(縄田)	教科書 p208～220 を予習しておく。	618, 619, 634
6	<u>抗アレルギー薬</u>	アレルギーとは何か、生理機構を理解し、抗アレルギー薬の薬理作用、機序および主な副作用を学ぶ。(縄田)	教科書 p221～230 を予習しておく。	621, 623, 634
7	<u>呼吸器系疾患治療薬</u> ①気管支喘息治療薬	呼吸の生理機構ならびに気管支喘息の病態を理解し、その治療薬の薬理作用、機序および主な副作用を学ぶ。(福森)	教科書 p371～380 を予習しておく。	655, 668
8	<u>呼吸器系疾患治療薬</u> ②鎮咳薬/去痰薬	咳の発現機構を理解し、鎮咳薬/去痰薬の薬理作用、機序および主な副作用を学ぶ。(福森)	教科書 p360～370 を予習しておく。	658, 668
9 10	<u>消化器系疾患の治療薬</u> ①消化性潰瘍治療薬 ②その他の消化器系疾患の治療薬	消化器系疾患の病態を理解し、抗潰瘍、止瀉、瀉下薬の薬理作用、機序および主な副作用を学ぶ。また嘔吐の発現機構を理解し、催吐薬/制吐薬の作用を学ぶ。(福森)	教科書①p387～395, ②p396～408 を予習しておく。	659, 664, 665, 666, 668
11	<u>貧血治療薬</u>	血液・造血系、および貧血の病態を理解し、その治療薬の薬理作用、機序および主な副作用を学ぶ。(福森)	教科書 p321～324 を予習しておく。	643
12	<u>抗血栓薬</u>	血液凝固系、および血栓症・塞栓症の病態を理解し、その治療薬の薬理作用、機序および主な副作用を学ぶ。(福森)	教科書 p311～321 を予習しておく。	610, 642
13 14	<u>悪性腫瘍治療薬①</u>	悪性腫瘍の病態を理解し、細胞の増殖過程に作用する薬を中心に薬理作用、機序および主な副作用を学ぶ。(縄田)	教科書 p530～563 を予習しておく。	714, 715, 717
15	<u>悪性腫瘍治療薬②</u>	分子標的薬を中心に薬理作用、機序および主な副作用を学ぶ。(縄田)	教科書 p530～563 を予習しておく。	714, 715, 717
16	<u>定期試験</u>	筆記試験(60分)		

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSB0番号/項目対応表を参照して下さい。